

プレスリリース

発信者 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会

理事長 下田 智久

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7-27

TEL:03-3268-3134 FAX:03-3268-3136

e-mail:shogaikouho@jhnfa.org

<http://www.jhnfa.org>

発信日 令和2年(2020年)4月1日(水) 渉外広報室

トクホ市場 6493 億円 前年度から微増しほぼ横ばい

= 特定保健用食品の市場および表示許可の状況 =

特定保健用食品制度は 1991 年（平成 3 年）の発足から 28 年が経過し、国が健康強調表示を許可・承認する制度として国際的にも注目されています。

1993 年（平成 5 年）に表示許可第 1 号の商品が誕生し、2020 年 3 月末現在、特定保健用食品として表示許可・承認された食品は 1074 品目となっています。

当協会は特定保健用食品の制度発足以来、食品業界に対して許可取得のための関係省庁の行政方針および関連情報の入手・伝達を始め申請相談等の支援活動を進めるとともに、健康食品全般について消費者および関係先への情報提供等の活動を展開してまいりました。

その一環として 1997 年度から特定保健用食品の市場規模調査を実施し、行政・学術関係者、国内外のマーケティング関係者など各方面に資料として提供しております。

この度、2019 年 12 月から 14 回目のアンケート調査を実施しましたので、その集計結果を中心に市場規模の推定とともに、表示許可等の現状についてご報告させていただきます。

本報告の作成に当たり、当協会会員をはじめとした特定保健用食品を開発、販売している各企業から多大のご協力をいただいたことに深く感謝いたします。



本件に関するお問い合わせは 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 特定保健用食品部 土田、伴 (TEL 03-3268-3132) または渉外広報室 福本 (TEL 03-3268-3134) にお願います。

I. 市場規模調査

1. 調査方法

特定保健用食品の表示許可を取得した企業に対して、アンケート方式で2019年度の品目別販売見込額および販売経路別市場構成について調査を実施した。

アンケートは2019年12月末現在許可取得の1075品目を持つ企業153社のうち、3月末までの失効品目を除く、1071品目、152社を対象として調査を行った。そのうち145社（回収率95.4%）、1059品目（回収率98.9%）について回答が得られた。

売上げ見込み額の詳しい情報が得られなかった品目については、それぞれヒアリングや業界内の生産、販売統計その他から当協会が推定した。

特定保健用食品の市場規模調査は1997年度から2013年度までは隔年で実施していたが、2013年度以降は毎年実施している。

2. 集計結果

(1) 市場規模

特定保健用食品の市場規模は、2019年度は6493億円となり、前回から微増しほぼ横ばいであった。

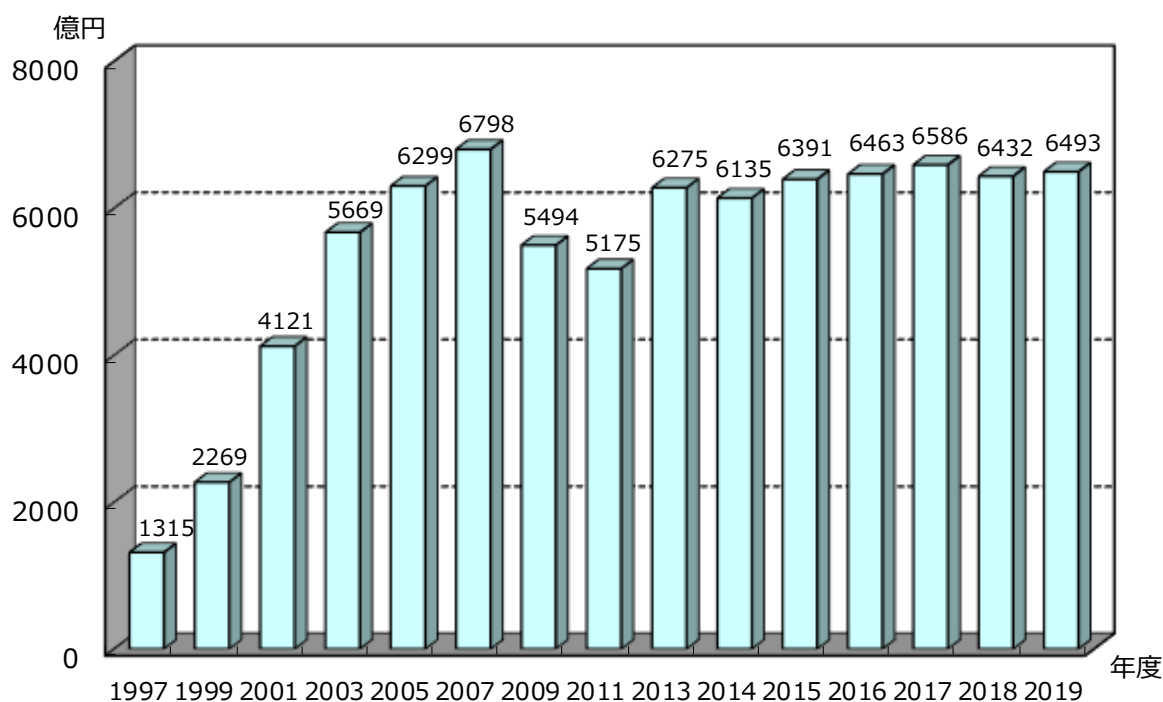


図1. 特定保健用食品の市場規模の推移

(2) 保健の用途別市場概況

保健の用途別の構成比は、2007年度から2016年度まで「整腸」、「中性脂肪・体脂肪」、「歯」の順にほぼ横ばいで推移していたが、2017年度に「歯」と「コレステロール」の順が入替わった。2019年度は、前年度に比べ、「整腸」が59.5%と最も大きく、「中性脂肪・体脂肪」が24.4%、「歯・肌」が4.4%と続いた（図2）。

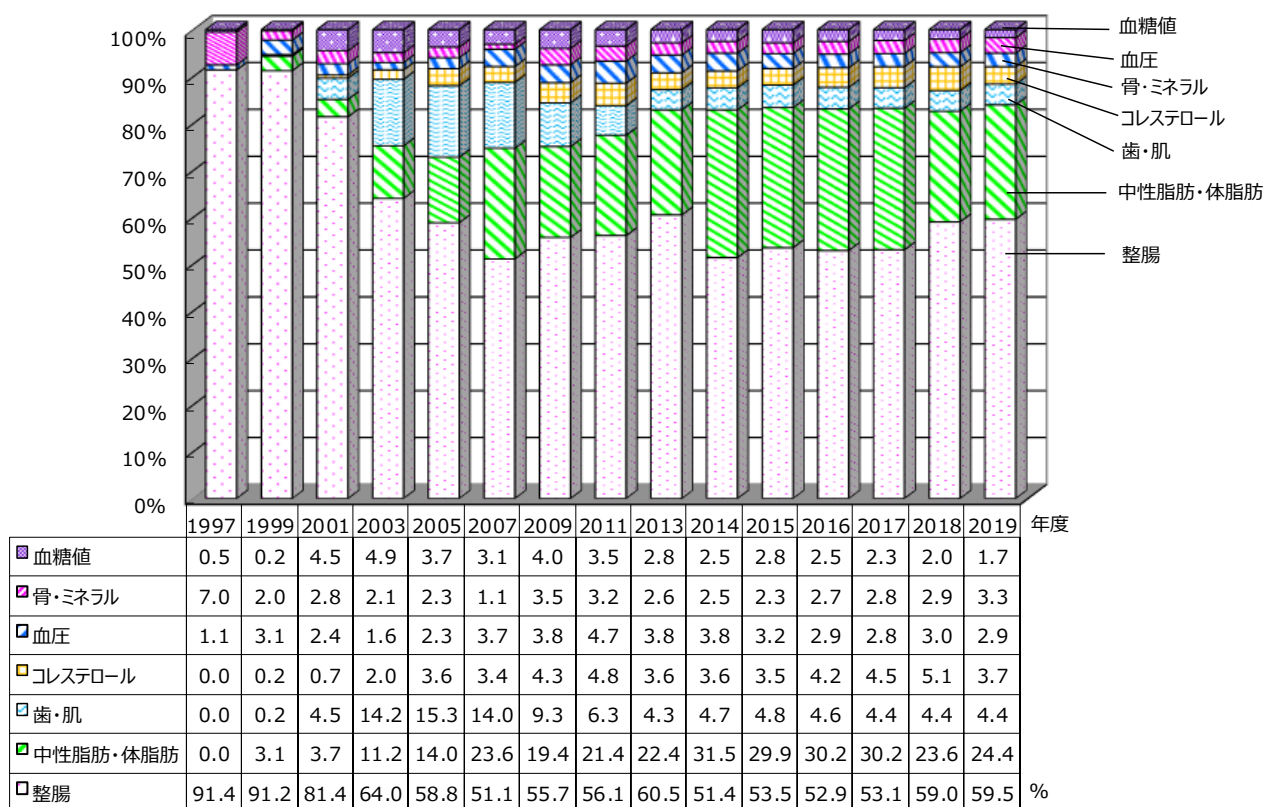


図2. 保健の用途別市場構成の推移

保健の用途別の市場規模の推移は以下のとおりであった（表1）。

整腸：特定保健用食品の中で最も規模の大きい「整腸」全体としては、調査開始以来、増加が続いていたが、2005年度をピークに減少した。その後、2013年度に再び増加し調査開始以来の規模となった。2014年度は再び減少したものの、2015年度から増加が続き、2018年度はピーク時の2013年度に近い水準となり、2019年度も前年度に比べ101.8%と微増した。

「整腸」の中心となる乳酸菌関連品目は、特定保健用食品の市場規模全体とほぼ同様に推移しており、2005年度をピークに減少したが、2013年度はピーク時の2005年度を上回り大幅に増加した。その後、2014年度より増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいで推移し、2018年度はピーク時の2013年度に近い水準となったが、2019年度は前年度に比べ99.7%と微減した。

オリゴ糖関連品目は、調査開始以来、大幅な増減を繰り返しながら推移しており、2014年度をピークに減少が続いた。その後、2017年度から再び増加したが、2019年度は前年度に比べ89.1%と大幅に減少した。

食物繊維関連品目もオリゴ糖関連品目と同様に調査開始以来、増減を繰り返しながら推移しているが、2014年度をピークに減少した。その後、2016年度から増加が続いており、2019年度も前年度に比べ144.9%と大幅に増加し、前年度に続き調査開始以来の規模となった。

コレステロール：調査開始以来、着実に増加が続いていたが、2011年度をピークに減少した。その後、2015年度より再び増加が続いており、2018年度は調査開始以来の規模となったが、2019年度は前年度に比べ73.7%と大幅に減少した。

血圧：調査開始以来、大幅な増減を繰り返しながら推移しており、2007年度をピークに減少した。その後、2011年度はピーク時に近い水準まで増加したものの、2013年度から減少が続き、2018年度は再び増加したが、2019年度は前年度に比べ99.2%と微減した。

骨・ミネラル：血圧と同様に、調査開始以来、大幅な増減を繰り返しながら推移しており、2009年度をピークに減少が続いていたが、その後、2016年度から再び増加が続いており、2019年度は前年度に比べ116.8%と大幅に増加し、調査開始以来の規模となった。

歯・肌：歯は1999年度に初めて登場し増加が続いていたが、2005年度をピークに2013年度まで減少が続いた。その後、2014年度に再び増加し、2016年度から再び減少が続いたが、2019年度は前年度に比べ101.6%と微増した。

血糖値：2003年度をピークに減少し、その後、増減しながら推移している。その後、2015年度に再び増加したが、2016年度から減少が続いており、2019年度も前年度に比べ85.3%と大幅に減少

した。

中性脂肪・体脂肪：歯と同様に 1999 年度に初めて登場してから増加が続いていたが、2007 年度をピークに減少し、2011 年度から増加した。その後、2015 年度に微減したものの、2016 年度に再び増加した。2017 年度は調査開始以来の規模となったが、2018 年度は大幅に減少し、2019 年度は前年度に比べ 104.2%と微増した。

表 1. 保健の用途別市場規模の推移

		年度								
		1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009	2011	2013
		億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円
整腸	オリゴ糖	103.7	91.1	56.2	66.8	58.9	71.8	34.0	29.6	68.5
	乳酸菌*1	978.8	1863.0	3171.1	3420.8	3516.8	3249.3	2925.6	2764.2	3562.1
	食物繊維	119.1	115.5	128.1	141.8	129.9	152.5	104.6	107.0	165.4
	小計	1201.6	2069.6	3355.4	3629.4	3705.6	3473.6	3064.2	2900.8	3796.0
コレステロール		0.3	4.3	27.9	113.6	228.0	230.3	234.4	248.8	224.3
血压		13.8	71.6	100.0	88.1	147.7	250.5	208.2	244.9	241.0
骨・ミネラル		92.0	44.9	113.9	120.1	143.3	73.3	192.6	166.7	160.3
歯		0.0	3.7	186.7	804.8	961.0	954.0	512.0	325.9	272.4
血糖値		6.7	5.2	184.3	277.4	232.9	210.5	215.9	180.5	176.6
中性脂肪・体脂肪		0.0	70.0	152.4	635.4	880.7	1606.0	1067.1	1107.3	1404.6
合計		1314.5	2269.3	4120.6	5668.8	6299.2	6798.2	5494.4	5174.9	6275.2

		2014	2015	2016	2017		2018		2019	
		億円	億円	億円	億円	16比(%)	億円	17比(%)	億円	18比(%)
整腸	オリゴ糖	84.1	80.8	80.3	114.6	142.8	118.4	103.3	105.6	89.1
	乳酸菌*1	2874.7	3153.5	3145.2	3188.6	101.4	3468.0	108.8	3455.8	99.7
	食物繊維	197.3	182.3	193.2	193.6	100.2	208.4	107.6	302.1	144.9
	小計	3156.1	3416.6	3418.7	3496.9	102.3	3794.7	108.5	3863.5	101.8
コレステロール*2		218.1	226.2	270.1	296.0	109.6	327.0	110.4	240.9	73.7
血压		232.4	205.2	187.0	181.4	97.0	192.2	105.9	190.7	99.2
骨・ミネラル*3		154.2	149.0	176.2	182.2	103.4	185.2	101.7	216.3	116.8
歯*4・肌		288.6	304.5	299.0	291.5	97.5	284.0	97.4	288.5	101.6
血糖値		154.0	181.9	162.2	151.2	93.2	130.7	86.4	111.4	85.3
中性脂肪・体脂肪*5		1931.7	1907.9	1950.7	1986.8	101.8	1518.0	76.4	1582.0	104.2
合計		6135.1	6391.3	6463.5	6586.1	101.9	6431.9	97.7	6493.4	101.0

*1 菌類含む、 *2 コレステロール+整腸含む、 *3 疾病リスク低減表示含む、 *4 歯ぐき含む、
 *5 内臓脂肪、中性脂肪+体脂肪、体脂肪+コレステロール、血糖値+中性脂肪、
 体脂肪+腹部脂肪+ウエストサイズ+肥満含む

II. 販売経路別および食品の種類別市場構成

1. 販売経路別市場構成

販売経路別の市場構成は、調査開始以来、「スーパー」、「コンビニ」が全体の約 5.5～6 割を占めており、構成比率はほぼ同規模で推移している（表 2）。

「スーパー」は、約 4 割を占めて増減しながら推移しており、2019 年度は前年度に比べ 100.7%と微増した。

「コンビニ」は、2011 年度より増加が続いていたが、2018 年度は大幅に減少し、2019 年度も前年度に比べ 99.0%と微減した。

「戸配」は、2009 年度を除き約 3 割を占めて推移していたが、2011 年度をピークに約 2 割に減少した。その後、2015 年度に再び増加し、増減しながら推移しており、2018 年度は前年度に比べ 96.9%と微減した。

「ドラッグ・薬局」は、2009 年度に構成比率が倍増し、さらに 2013 年度も構成比率がほぼ倍増した。その後、2014 年度から減少し、ほぼ横ばいで推移しているが、2019 年度は前年度に比べ 99.3%と微減した。

「通信販売」は、調査開始以来、構成比率が小さいまま推移しているが、2009 年度に大幅に増加した。その後、微増しながら推移していたが、2019 年度は前年度に比べ 77.8%と大幅に減少した。

表 2. 販売経路別市場構成の推移

年度

販売経路*	1999	2001	2003	2005	2007	2009	2011
	%	%	%	%	%	%	%
スーパー	49.4	47.2	40.3	42.3	42.5	43.8	39.3
コンビニ	12.6	14.6	15.6	14.7	16.0	16.2	13.5
戸配	30.8	30.8	34.4	32.8	33.2	26.5	30.7
ドラッグ・薬局	4.1	3.8	3.0	3.1	2.7	5.4	5.9
通信販売	0.7	1.0	0.8	0.7	0.9	2.4	3.1
その他	2.4	2.6	5.9	6.4	4.7	5.7	7.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

販売経路*	2013		2014		2015		2016	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
スーパー	2521	40.2	2558	41.7	2435	38.1	2563	39.7
コンビニ	889	14.2	984	16.0	1037	16.2	1071	16.6
戸配	1502	23.9	1246	20.3	1567	24.5	1433	22.2
ドラッグ・薬局	662	10.5	448	7.3	441	6.9	449	6.9
通信販売	179	2.9	241	3.9	242	3.8	283	4.4
その他	523	8.3	658	10.7	668	10.5	664	10.3
計	6275	100.0	6135	100.0	6391	100.0	6463	100.0

販売経路*	2017			2018			2019		
	億円	%	16比(%)	億円	%	17比(%)	億円	%	18比(%)
スーパー	2799	42.5	109.2	2821	43.9	100.8	2842	43.8	100.7
コンビニ	1270	19.3	118.6	1116	17.3	87.8	1104	17.0	99.0
戸配	1140	17.3	79.6	1249	19.4	109.5	1211	18.6	96.9
ドラッグ・薬局	395	6.0	87.9	406	6.3	102.9	403	6.2	99.3
通信販売	290	4.4	102.4	376	5.8	129.7	292	4.5	77.8
その他	692	10.5	104.2	464	7.2	67.1	641	9.9	138.0
計	6586	100.0	101.9	6432	100.0	97.7	6493	100.0	101.0

* 2009 年度までは、販売経路選択は複数回答としている。

2. 食品の種類別市場構成

食品の種類別の市場構成は4種類に区分して調査を行っている(表3)。

全体の構成比率としては、2014年度からほぼ横ばいで推移している。2019年度は、「清涼飲料水」は前年度に比べ105.0%と増加し、「乳製品」は前年度に比べ99.6%と微減した。「加工食品・調味料」は前年度に比べ105.2%と増加し、「菓子・その他」は91.6%と大幅に減少した。

表3. 食品の種類別市場構成の推移

年度

食品の種類	2007		2009		2011		2013		2014		2015	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
清涼飲料水	1665	24.5	1315	23.9	1247	24.1	1797	28.6	2315	37.7	2290	35.8
乳製品	3285	48.3	3012	54.8	2840	54.9	3635	57.9	2927	47.7	3198	50.0
加工食品・調味料	879	12.9	599	10.9	636	12.3	428	6.8	410	6.7	402	6.2
菓子・その他	969	14.3	568	10.4	452	8.7	416	6.7	484	7.9	502	8.0
合計	6798	100.0	5494	100.0	5175	100.0	6275	100.0	6135	100.0	6391	100.0

食品の種類	2016		2017			2018			2019		
	億円	%	億円	%	16比 (%)	億円	%	17比 (%)	億円	%	18比 (%)
清涼飲料水	2342	36.2	2438	37.0	104.1	1950	30.3	80.0	2047	31.5	105.0
乳製品	3187	49.3	3219	48.9	101.0	3562	55.4	110.7	3548	54.6	99.6
加工食品・調味料	413	6.4	451	6.8	109.1	409	6.4	90.6	430	6.6	105.2
菓子・その他	521	8.1	479	7.3	91.8	511	7.9	106.8	468	7.2	91.6
合計	6463	100.0	6586	100.0	101.9	6432	100.0	97.7	6493	100.0	101.0

【食品の種類】

1. 清涼飲料水：茶系飲料、炭酸飲料、果実飲料、ミネラルウォーター、ゼリー飲料、コーヒー、粉末清涼飲料（インスタントコーヒー等）など
2. 乳製品：乳酸菌飲料、はっ酵乳など
3. 加工食品・調味料：大豆加工品、穀物加工品、食肉・魚肉加工品、調理油、マーガリン、マヨネーズ、調理酢、甘味料など
4. 菓子・その他：キャンディー、クッキー、ビスケット、チューインガム、ナタデココ、あられ、チョコレート、錠剤、粉末、顆粒、乾燥スープ、即席みそ汁、青汁など

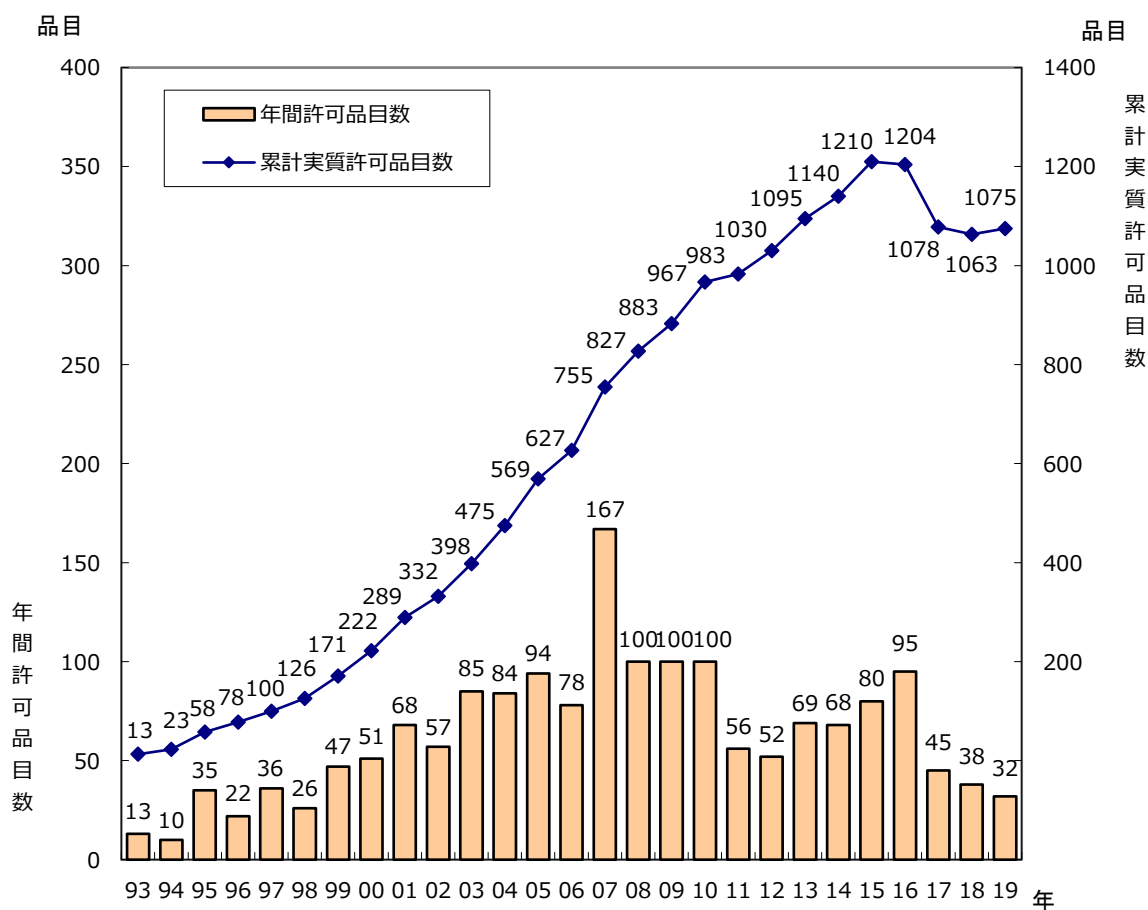
Ⅲ. 表示許可・承認の状況

1. 表示許可・承認品目の推移

2019年12月末現在の表示許可・承認の品目総数は1075品目であり、2019年1月から12月の1年間に表示許可を受けた特定保健用食品は32品目であった（図3）。

保健の用途別許可品目の内訳では、「中性脂肪・体脂肪」は12品目増であり、「整腸」が6品目増であったが、「血糖値」は4品目減であり、「血压」が3品目減であった。

申請区分の内訳では、許可品目数の最も多い「特定保健用食品」は2品目減であったが、続いて許可品目数が多い「再許可等」は8品目増であり、さらに続いて許可品目数が多い規格基準型は6品目増であり、全体の許可品目数では12品目増であった（表5）。



* 累計実質許可品目数 = 累計許可品目数 - 同失効品目数

図3. 表示許可・承認品目の推移（2019年12月末現在）

表4. 保健の用途別許可品目の推移

年

保健の用途		1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009
整腸	オリゴ糖	40	53	62	62	76	78	77
	乳酸菌	8	36	55	61	69	75	77
	食物繊維	24	32	50	70	104	144	169
	小計	72	121	167	193	249	297	323
コレステロール		12	14	37	52	86	114	136
血圧		4	9	24	38	64	88	110
骨・ミネラル		8	10	18	23	33	44	51
歯		3	5	13	26	34	58	68
血糖値		1	3	19	49	72	100	131
中性脂肪・体脂肪		0	9	11	17	31	54	64
合計		100	171	289	398	569	755	883

保健の用途		2011	2013	2014	2015	2016	2017	構成(%)	16比(数)
整腸	オリゴ糖	82	87	88	92	83	73	7	△10
	乳酸菌	81	82	83	84	81	57	5	△24
	食物繊維	192	208	223	232	229	209	19	△20
	小計	355	377	394	408	393	339	31	△54
コレステロール		139	146	150	155	125	114	11	△11
血圧		119	126	126	126	137	110	10	△27
骨・ミネラル		57	63	59	63	61	49	5	△12
歯		75	86	88	102	106	87	8	△19
血糖値		148	174	189	210	212	187	17	△25
中性脂肪・体脂肪		90	123	134	146	169	190	18	+21
肌		-	-	-	-	1	2	0	+1
合計		983	1095	1140	1210	1204	1078	100	△126

保健の用途		2018	構成(%)	17比(数)	2019	構成(%)	18比(数)
整腸	オリゴ糖	70	7	△3	71	7	+1
	乳酸菌	57	5	±0	57	5	±0
	食物繊維	212	20	+3	217	20	+5
	小計	339	32	±0	345	32	+6
コレステロール		111	10	△3	111	10	±0
血圧		106	10	△4	103	10	△3
骨・ミネラル		50	5	+1	52	5	+2
歯		88	8	+1	88	8	±0
血糖値		186	18	△1	182	17	△4
中性脂肪・体脂肪		180	17	△10	192	18	+12
肌		3	0	+1	2	0	△1
合計		1063	100	△15	1075	100	+12

品目

表5. 申請区分別許可品目の推移

年

	2007	2009	2011	2013	2014	2015	2016
特定保健用食品	524	517	533	558	553	572	548
条件付き特定保健用食品	1	1	1	1	1	0	1
特定保健用食品 (規格基準型)	16	28	47	80	110	135	133
特定保健用食品 (疾病リスク低減表示)	5	10	14	16	14	16	14
特定保健用食品 (再許可等) *	209	327	388	440	462	487	508
合 計	755	883	983	1095	1140	1210	1204

	2017	構成 (%)	16比 (数)	2018	構成 (%)	17比 (数)	2019	構成 (%)	18比 (数)
特定保健用食品	477	44	△71	455	43	△22	453	0	△2
条件付き特定保健用食品	1	0	±0	1	0	±0	1	0	±0
特定保健用食品 (規格基準型)	131	12	△2	127	12	△4	133	0	+6
特定保健用食品 (疾病リスク低減表示)	12	1	△1	14	1	+2	14	0	±0
特定保健用食品 (再許可等) *	457	42	△51	466	44	+9	474	0	+8
合 計	1078	100	△126	1063	100	△15	1075	1	+12

品目

* 疾病リスク低減表示 13 含む

IV. むすび

調査開始以来、2007 年度をピークに減少し続けていた特定保健用食品（以下「トクホ」）の市場規模は、2013 年度に大幅な回復を示した。その後、2014 年度にやや減少したものの、2015 年度から再び増加していたが、2018 年度にやや減少し、2019 年度は 6493 億円と微増しほぼ横ばいであった。

保健の用途別では、トクホの制度発足以来、最も規模の大きい「整腸」分野が市場を牽引している。「整腸」は主力の乳酸菌分野により 2013 年度に調査開始以来の規模に伸長し、その後、増減が続いていたが、2019 年度は大幅に増加した。

メタボリックシンドロームの診断基準に関連する保健の用途では、「コレステロール」は 2015 年度から増加が続き 2018 年度に調査開始以来の規模となったが、2019 年度は大幅に減少した。「血压」は 2013 年度から減少が続き、2018 年度に再び増加したものの 2019 年度は微減した。「血糖値」は 2015 年度をピークに減少が続いており、2019 年度は大幅に減少した。

2011 年度以降、顕著な伸びを示していた「中性脂肪・体脂肪」は、2007 年度をピークに増減しながら推移しているが、2019 年度は微増した。

「歯」は 2005 年度をピークに減少したが、「肌」との合計で、2019 年度は微増した。

販売経路別では、「スーパー」、「コンビニ」が全体の約 5.5～6 割を占めており、2019 年度は「スーパー」も前年度に比べ微増し、「コンビニ」は微減した。

「ドラッグ・薬局」は 2013 年度まで伸長が続いていたが、2014 年度から減少が続き、2018 年度は微増したものの、2019 年度は微減した。「通信販売」は、2016 年度より増加しており、2018 年度は大幅に増加したが、2019 年度は微減した。

食品の種類別では、2019 年度は「清涼飲料水」は増加し、「乳製品」は微減した。「加工食品・調味料」も増加し、「菓子・その他」は減少した。

トクホは 1991 年（平成 3 年）に特別用途食品として制度化され、生活習慣病の一次予防を目的とした健康の維持増進や医療費削減への寄与が期待されており、消費者庁では、2019 年度にトクホの疾病リスク低減表示の拡充に関する調査事業が行われ、日健栄協ではトクホの公正取引規約の策定や公正取引協議会の設立に向けた取組みを行っている。

消費者をはじめ、事業者、医療専門家などがトクホを理解し、正しく活用できる環境が醸成され、トクホ制度が拡充されることで、国民の健康の維持増進のさらなる向上が図られ、国民医療費の削減にも繋がるものと考えられる。

今後、各企業の新たな保健の用途申請へのチャレンジと新規商品開発による申請数の増加により、広く国民の健康の維持・増進に寄与し、市場の拡大につながることを期待したい。

当協会は今後も消費者庁をはじめ関係各省庁等の指導を得ながら、会員企業と協力して消費者に対するトクホの正しい使用方法等の情報提供を推進し、更なる普及に努めていきたい。

以上